

それでも平和を求めるのは

辻塚 祐輝

ずっと昔のことです。わたしたちのクラスにはケンカがありました。はじめ、そのケンカは、いつもみたいに、お互いがちょっかいを出し合っていたものでした。でもケンカは、だんだんと大きくなっていって最後はクラス全体を巻き込んだケンカになりました。

わたしたちのクラスでケンカはめずらしくありません。毎日、毎日、誰かが誰かとケンカをしています。毎日、毎日、誰かが誰かを殴ったり誰かに殴られたりしています。

これが、わたしたちのクラスの日常です。

ですが、ケンカがめずらしくないわたしたちのクラスでも、そのときのケンカは特別なものでした。なぜなら、そのケンカが終わるときにクラスのリーダーが大きなバットをもってきて、ケンカをしている子に大きなケガをおわせてしまったからです。

その力をみたクラスの子たちは大きなバットがおそろしくなりました。そしてケンカが終わったあとに自分たちも大きなバットをもってくるようになりました。それで今では大きなバットをもってくる子がふえて大きなバットの数もふえました。

とてもクラスの雰囲気はギスギスしています。

わたしたちはクラスのケンカをなくすために、たくさんのことをしました。まず委員会をつくってケンカをしないためにルールを作りました。それはケンカをはじめた子をみんなで作っつけるというルールです。そして大きなバットをふやさないように大きなバットをもっている子たちもルールを決めました。あたらしく大きなバットをもってくるのを禁止するというものです。けれども、ケンカは減りません。いつも誰かがケンカをしています。

——それが、わたしたちのクラスの生活です。

わたしたちの生活——いえ、これが地球の現実です。

わたしからしたら、ずっと昔に、歴史からしたら、ごく最近になって、ようやく国際連合という組織をわたしたちのセンパイは作り上げました。その理念は戦争をなくすことにあります。世界平和を実現することです。ところが平和を実現することは歴史のなかでもっともむずかしいものでした。だから、「世界の平和なんて」とバカにするひともいます。

ですが、わたしはバカにすることができません。なぜなら、わたしたちの歴史は戦争の歴史だからです。これまでに、わたしたちは無限の戦争を繰り返してきました。そして今でも、たった数十年違うだけで、たった数千キロ違うだけで、わたしの隣には死があります。わたしたちは、そういう世界に生きているのです。だから、わたしは世界平和という言葉の理想をわらうことができません。

集団安全保障という言葉があります。普段の生活ではきかない集団安全保障という言葉が現在おこなわれているウクライナ危機で、わたしは思い出しました。この言葉は戦争をはじめた国があれば、みんなで戦争をやめさせるというものです。平和のために戦争をする、という意味です。わたしは、このウクライナ危機によって、そのくらい平和を求めるということは重たい意味がのっている言葉なのだと自覚させられました。

しかし、今回の戦争において集団安全保障は理想のように機能しませんでした。戦争をと

めることができませんでした。なぜなら、それはロシアがもっている核兵器によって戦争に直接介入することができなかつたからです。各国が足踏みしたからです。この状況は血を止めるため血を流す覚悟でいる世界をあざわらっています。端的に言えばバカにしています。

けれども、それこそが核兵器のもたらす力なのです。

なぜ、平和を追い求めなければならないのか？ なぜ、核兵器をなくさなければならないのか？ その答えは、「核兵器が世界を滅ぼしてしまうから」や「あぶないから」や「平和は大切なことだから」や「ひとが死ぬから」ではありません。それは平和を追い求める理念を嘲笑する世界にしないためです。平和を形而上の理想にしないためです。わたしたちの世界で「平和」は、平和を追い求めずに平和をあがめているだけで実現しません。なぜなら平和はなまもので、いつか、その平和をあがめる行為が戦争をあがめる行為にすりかわってしまうからです。

それは今回のウクライナ危機でも顕著にあらわれました。いまだに真実はあきらかになっていませんが、プーチン大統領はウクライナのネオナチからウクライナ国民を開放するという大義名分のもとで戦端をひらきました。「ネオナチからウクライナ国民を開放する」というのは、ある種の平和をあがめる行為だと思います。なぜなら、その大義の目的がウクライナ人の弾圧からの解放だからです。ですが、その平和をあがめる行為が、こうしていとも簡単にミサイルや銃弾や爆弾や殺意に化けました。そして核兵器によって集団安全保障体制を崩壊させてしまいました。

血で血を止める覚悟をもった世界は核兵器によって壊されました。そして、わたしたちは核兵器を止める手段をもっていません。核兵器の世界平和に対する冒とくや挑戦を防ぐ手段をもってはいないのです。だからこそ——、だからこそ、その覚悟を踏みにじり傷つける核兵器の廃絶は、わたしたちにとって追い求めていかなければならない最も重要な課題になるのです。

核兵器には戦争を防ぐ力があります。それは核兵器をもちいるという社会価値があるからです。その前提が崩れれば戦争も起こるし核兵器の一方的な行使もあると考えます。

そして平和には管理が必要で管理とは他人を矯正するものです。平和を求めれば周囲との反発を招き争いが生じます。わたしたちは未来のために協調の平和という新しい概念を希求しなければならないのです。